2026年11月13日

各　位

会　社　名　株式会社フェニックスバイオ
代表者名　代表取締役　加國　雅和
（コード番号：6190　東証グロース）
問合せ先　取締役管理部長　加川　修
（TEL　082-431-0016）

2027年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2026年５月15日に公表しました2027年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2027年３月期通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

１．2027年３月期　第２四半期（中間期）連結累計期間の業績予想値と実績値との差異
（2026年４月１日～2026年９月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想(A)	671	△96	△95	△98	△24.30
今回実績(B)	558	△119	△120	△123	△30.36
増減額(B-A)	△112	△23	△24	△24	－
増減率(%)	△16.8	－	－	－	－
(ご参考)前期第２四半期実績(2026年３月期第２四半期)	756	5	16	12	3.03

２．2027年３月期　通期連結業績予想数値の修正
（2026年４月１日～2027年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想(A)	1,610	85	87	76	18.90
今回修正予想(B)	1,416	20	25	19	4.78
増減額(B-A)	△194	△64	△61	△57	－
増減率(%)	△12.1	△75.6	△70.8	△74.7	－
(ご参考)前期実績(2025年３月期)	1,565	82	131	125	30.81

３．差異及び修正の理由

当第２四半期（中間期）連結累計期間の業績につきましては、創薬モダリティの多様化や創薬機序の複雑化が進む創薬市場の中、ヒト予測性の高い評価系に対する需要は高まっており、特に国内市場においては、PXB マウスが新しい創薬モダリティを含む幅広い創薬研究において採用されるとともに、PXB-cells についても薬物代謝試験や安全性評価におけるルーティン評価ツールとして利用が拡大したことにより、PXB マウス及び PXB-cells 等の製品販売が伸長したため売上高は、計画値の約 139％と好調に推移いたしました。一方、海外市場においては、主要顧客である米国製薬企業の研究開発予算の抑制が継続しており、見込んでいた受託試験案件が失注したことに加えて、今夏に予定していた米国での新鮮 PXB-cells の委託生産及び販売について、品質確認に時間を要したため、販売開始が第 4 四半期以降に遅延し、売上高は計画値の約 65％と大きく下回りました。費用につきましては、売上原価及び販売費及び一般管理費の圧縮を進めたものの、売上高の減少影響を吸収するには至らず、当第２四半期連結累計期間の営業利益は、計画値△96 百万円に対して実績値△119 百万円と損失が拡大いたしました。

通期の連結業績予想につきましては、国内市場は、前述のとおり、前連結会計年度及び計画値に対しても伸長するものと見込んでおりますが、一方で、海外市場は、PXB マウスの需要は堅調ではあるものの、当第 2 四半期連結累計期間までの、受託試験サービスの受注状況と売上未達を勘案いたしまして、通期の売上計画値を修正いたします。また、経費につきましては見直しを行い、総製造費用及び販売費及び一般管理費で大きく削減しておりますが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益については、売上高の減少に伴い、それぞれ計画値を下方修正いたします。

なお、想定為替レートにつきましては、現在の状況を鑑みて１ドル 155 円から 158 円に変更しております。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以　上